

# 難波塾



## メインテーマ「糖尿病その3」

日時：2012年6月1日(金)、18:30~20:00

場所：広島市東区民文化センター(広島駅新幹線口徒歩10分)

広島市東区東蟹屋町10-31 TEL 082-264-5551

お布施(参加費)/定員：1,000円/人/36名 懇親会費3,000円

### 第3回難波塾開催のお知らせ

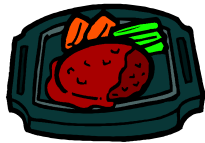
“食事療法パートナーさんと御一緒にどうぞ！”  
サブタイトル～“次回検査迄だけでも実践してみよう糖質制限食！”

講師：鹿鳴荘病理研究所 所長 難波紘二

(医学博士・広島大学名誉教授)

#### 18:30 テーマ/進行(なぜ糖質を狙い撃ち?)

現在の糖尿病の生活指導療法の基本は、(糖質含めた)5大栄養素の摂取制限と運動(消費)です。(糖質制限食事療法)は、肉も脂も怖がらず(高脂血症は別)等と言いますと、献身的な協力者(家族)の方々は、違和感をもって受けとめられるかも知れません。が、総摂取熱量/日は従来療法と同程度なのです。過労中のランゲルハンス島に休暇をあげる為に、従来食事療法から糖質を限りなくゼロ近く迄に差し引いただけのものです。今回は、再度、難波先生自ら糖質制限食開始以降、インシュリンから解放される迄の検査数値変化のお話を再度受け、第1回/第2回と糖尿病メカニズムと治療法(糖質制限食事療法)を少しかじって実践した塾生の数値変化の報告を聞きます。



肉・油OK

・糖質(糖質オフの酒・  
ビールはOK、菓子類)  
・炭水化物

＝ 現在指導を受けてい  
る摂取熱量/日(以下)

過労中のランゲルハンス島にムチ打つよりも(糖質制限で)休養を!

『肉と魚しか食べないエスキモー(イヌイット)に糖尿病はないのである。彼らはそもそも一日三食という習慣すらない。各自腹が減ったら、氷室に入って、貯蔵してある冷凍鯨肉を適当に切りとって食べるのである。・・・「家族団らんの食事」なんて、明治以後に生まれた一時的な現象で、江戸時代にはそういう風習はなかった。大名などはいつも一人で食べたのである。』(難波紘二 3/22/'12 鹿鳴荘便り【心臓毒/またまた糖尿病食/早春賦】)

#### 19:15(頃) 参加者の方と質疑

- ・糖尿病以外でも聞きたい事を自由に質問して下さい。
- ・質疑に具体性を持たせる為、検査値、薬剤名等は解る様にして御来場下さい。

#### 20:00頃 終了

- ※-1 参加資格はありません。糖尿病/病気/医療やいろんな事に興味心をお持ちの方は、是非お誘い合わせの上御来場下さい。
- ※-2 本塾は非営利活動として開催されるもので、特定の健康食品・薬品・治療機器の斡旋販売を目的とするものではありません。
- ※-3 塾終了後、懇親会を予定しています(参加自由)。
- ※-4 連絡：難波塾事務局(仮)(090-7777-3419 暫定世話人：中河原)
- ※-5 難波紘二先生のプロフィールは次頁を参照下さい。

今後のテーマ予告

別紙塾生で作るリクエスト表をご参照下さい。

講師プロフィール： 難波紘二(なんばこうじ)。

1941年広島市生。医学博士。広島大学名誉教授。「鹿鳴荘病理研究所」を設立し代表を務める。広島大学医学部大学院博士課程。呉共済病院で臨床病理科初代科長。NIH 国際奨学生に選ばれ米国 NIH Cancer Center の病理部に2年間留学し血液病理学を研鑽。帰国後、広島大学総合科学部教授となり、倫理学、生命倫理学へも研究の幅を広げ、2006年に起こった病気腎移植問題では、容認派として発言し注目される。著書に『歴史のなかの性—性倫理の歴史』『生と死のおきて—生命倫理の基本問題を考える』『覚悟としての死生学』『誰がアレクサンドロスを殺したのか？』等。『大学新入生に薦める101冊の本』の編集代表。鹿鳴荘便り(メルマガ)、「買いたい新書(エフロブで検索)」で精力的に書評を執筆中。鹿鳴荘病理研究所：東広島市福富町久芳 685-7 TEL/FAX082-435-2216,

新幹線口から線路沿いに岡山方面に歩きます。徒歩約10分です

